

江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0206 NO86

校長 伊波喜一

開店の チラシ手に持ち 声かける 手に取る人に 笑顔こぼれて
街中を歩いていると、新店舗開店の呼び込みが聞こえてくる。懸命な姿に、(せめてチラシだけでも) と、手に取った。新たに何かを始める時には、予想外のことが待っている。計画を立てたものの見込み違いのことが起きたり、ドタキャンされて計画が覆ったり、一寸先が読めないことに出くわす。ある企業経営者が語っていた。「危機的状況の中では、ただ座って待っているわけにはいきません。しかし、飛び込んでイニシアチブを取る人が現れる一方で、わきで見ていただけの人もいます。危機的な状況にあるときにこそ、その人の本質が見えるものです」。逆境にある時にかけられた励ましの一言は、忘れられない。また、共に悩んでくれた誠実さは、忘れられるものではない。それらは温もりとなり、時が経てば経つほど、いぶし銀の輝きを増す。苦境にある時に、支え・支えられた経験は、その人にとどまらず、回りをも変えていく力となってゆく。現状を変えていくのに、近道はない。それぞれが一步一步、地に足をつけて進むしかない。心を一つにし、限界という壁に挑戦してゆきたい。